計算ツールの概要及び入力方法に関する解説

EXCELによる計算ツールは、必要な項目に入力を行う事により耐震性能評価結果を表示します。計算ツールは、『耐震性能評価』『建築物重量算定』『構造要素入力X方向2階』 『構造要素入力X方向1階』『構造要素入力Y方向2階』『構造要素入力Y方向1階』『通し柱 折損の検討』『チェックリスト』シートにわかれています。ここではシート毎に解説を示します。

1. 『耐震性能評価』シート

「耐震性能評価」シートは、「建築物の概要」等の入力を行い、「建築物の重量」「せん断耐力の算定」「せん断耐力の確認」等の結果を表示します。このシートで建築物の耐震性能評価 を判断することになります。

下図①~⑬に入力項目と結果表示の概要を示します。

入力項目は、①②⑬の該当項目となります。



『耐震性能評価』シート解説①~⑬と『EXCELによる計算ツールの流れ』の関係



2. 『建築物重量算定』シート

『建築物重量算定』シートは、建築物の方向・ゾーン・階毎の重量算出のための入力を行い、重量の集計結果を表示します。

下図①~④に入力項目と結果表示の概要を示します。 入力項目は、①~②の該当項目となります。

建築物重量の算定

各床面 全 (m ²)	 2階の居 1階の居 2階の尻 (単位床ご 1階の尻 (単位床ご 	歴根投影面積 歴根投影面積 医面積 重相重量計算用) 下面積 面積 面積 面積 面積 面積 面積	項目 記号 A2 A1 H2 D1	X方向 82.90 28.44 59.33 87.18	<mark>Улар</mark> 82.90 28.44 59.33 87.19	4	『耐窟 を表する	ξ性能評価』 kします。X, 5場合は、入	シー Y方 、力を ※	トに 向のī 再確	表示積認	する値 が同じ さい。		面積重 ること	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	記下さ	∃床面 ≤い。	積				
X方向	_{方向} X方向 _{項目}			,		仕様	直	接入力 位重量 爭	採用 単位重量	, 面積	4 重量	〔 面積	ソ- 3 重量	-ン ((面積	C) 重量	([面積)) 重量	全 A~[面積	体)合計 重量			
		雄入力面 2階 の屋根投影面	RB A2	第定3	する重量	仕様1 仕様2	勾配補正	瓦屋根(ふき土なし 5.0寸勾配		N/m ²) (€N/m ²) 0.65 ×1.12	(m ²) 5526	(kN) 40,04	(m ²) 27.64	(kN) 20.02	(m ²)	(kN) 0.00	(m ²)	(kN) 0.00	(m ²) 82.90	(kN)	
	水 平 投影面 又 は 水平面	2階 の床面	B2	2階小屋楽 +2階内部壁の上半分		仕様1	加算仕上加算仕上	土壁(t=65mm)			0.88	33,36	29.36	25.97	22.85		0.00		0.00			
2階用	-	2階 の屋根矢切面	矢切2	2階屋根矢切		住様2 仕様1	加算仕上 加算仕上 加算仕上	土壁 (t=65mm)			0.84	14,11	11,85	19.14	16.08		0.00		0.00			
W2	鉛直面	2階 の外周壁面	C2	2階外周壁 の上半分	1 階から 自動入力	仕様2 仕様1 ※い 仕様2	加算仕上	その他の仕様		0.64	0.64	17.62	11.27	20.10	12.87		0.00		0.00			
	任意面		その他	2階ロフト 設備		*0	加彈仕上															
			W ₂ =A	2+B2+矢切+C	2+その他								92.52		71,82		0.00		0.00		164,34	
		1階 の屋根投影面	A1	1階屋根・下屋の	屋根	仕様1 仕様2	勾配補正 勾配補正	鉄板 5.0寸勾配 土壁 (t=65mm)		(0.23 ×1.12	22.99	5.96	5.45	1.41		0.00		0.00	28.44		
	水 平 投影面 又 は 水平面	1階の床面 ー2階の床面	B1	1階小屋楽 +1階内部壁の上半分		仕様1 仕様2	加算仕上加算仕上					33,31	26.98	0.00	0.00		0.00		0.00		_	2 階床面積 H2 集計結果
		2階 の床面	H2	2階内部壁の下半 +1階内部壁の上 +2階床梁(階段 +2階積載荷重	分 半分 を含む面積)	仕様1 仕様2	加算仕上	土壁(t=65mm)			1.44	33.36	48.04	25.97	37.40		0.00		0.00	59,33	1	
		Q	吹抜	階段を除いた吹き	ち抜け	仕様1 仕様2		吹き抜け			0.25	11,94	2.99		0.00		0.00		0.00			
1 階用 W1		1階 の屋根矢切面	矢切1	1階屋根矢切		仕様1 仕様2	加算住上															
	鉛直面	2階 の外周壁面	C2	2階外周壁 の下半分	2階へ 自動入力	仕様1 ※い 仕様2 ※ろ	加算仕上	その他の仕様		0.64	0.64	17.62	1127	20.10	12.87		0.00		0.00			
		1階 の外周壁面	C1	1階外周壁 の上半分 1階ロフト	1階床位置へ 自動入力	山禄 ※は 仕様2 ※に	加算仕上			,04		43.90	28.10	25.34	16.22		0.00		0.00			
			その他	設備																		
	任意面								_		-											
									-		-											
	** 11 75	1階 の床面	W1=A D1 土間	A1+B1+H2+吹抜+矢切+C2 浴室、玄関、土間等は、荷重/ 村にかからないため、重量は ない。※面積は入力(単位床E 量計算用)	友+矢切+C2+C1- 調等は、荷重が床組 とめ、重量は算定し 、力(単位床面積重	+その他		_		_			123.34		67.89		0.00		0.00	97.49	191,23	1 階床面積 D1 集計結果
1 158	<u>л</u> -ш		D1 床組	1階の内部壁の下 +床梁+足固め+ +束+積載荷重	半分 -床板+根太	仕様1 仕様2		土壁(t=65mm)			1.33	4821	64.12	38.97	51.83		0.00		0.00	01,10		
中 階 床位置 Wo	鉛直面	1階 の外周壁面	C1	1階外周壁 の下半分	1 階から 自動入力	仕様1 ※は 仕様2 ※に	第1 その他の仕様 加弾仕上 第2 口卵吐上			0.64	0.64	43.90	28.10	25.34	1622		0.00		0.00			
	任意面		その他																			
L			₩ ₀ =D	1床組+C1+その	Dft9	~	7						9222		68.05		0.00		0.00	_	160.26	/
	①「 かれ 力 該 入	項目」毎 ら選択し ます。「そ 単位重量 当「項目 カ下さい	に「仕 た場合 の他 」に数 」がな	±様」を入れ は、「採用 の仕様」を 対値を直接入 い場合は、	コ下さい。ド 単位重量」に 選択した場合 、カ下さい。 項目「その	ロッフ [°] 5 は ら は、 他」 4	f かリスト					本の「 集計結	面積	」「重: 表示し	 」 ノま	I						



3. 『構造要素入力』シート

『構造要素入力』シートは、構造要素毎に入力を行い、せん断耐力を自動計算します。方向・階毎に『X方向2階』、『X方向1階』、『Y方向2階』、『Y方向1階』の4シートに分かれていますので該当するシートに入力を行う必要があります。

下図①~⑥に入力項目と結果表示の概要を示します。

入力項目は、①・③と「構造要素」毎の該当項目となります。



3.1. 「長ほぞ」入力セル

「長ほぞ」の入力項目に入力するとせん断耐力を自動計算します。 下図①~③に入力項目と結果表示の概要を示します。 入力項目は、①の(1)~(3)となります。



長ほぞ仕口の曲げモーメントとせん断力

(詳細設計法案 P.110 より引用)



入力項目

- (1) : 横架材芯々間距離(mm)
- (2) :ほぞ向き「強軸」「弱軸」から選択
- (3) : 箇所数(箇所)

せん断耐力計算式

せん断耐力 $Q = a_1 \times \frac{M}{a_2} \times a_3$ (kN)

- M : 基本耐力は、長ほぞ仕口1箇所あたりの特定回転角1/20時の
 曲げモーメント(kN·m)
- a1 :補正係数「強軸 or 弱軸」強軸の時 1、弱軸の時 0
- a_2 : 補正係数「横架材芯々」(m)
- a3 : 補正係数「箇所数」(箇所)

適用範囲

「標準設計法案」による。

3.2.「貫」入力セル

「貫」の入力項目に入力するとせん断耐力を自動計算します。 下図①~③に入力項目と結果表示の概要を示します。 入力項目は、①の(1)~(4)となります。



(詳細設計法案 P.110 より引用)



入力項目

- (1) : 横架材芯々間距離(mm)
- (2) : 貫厚さ(mm)「15」「18」「21」「24」「27」「30」から選択
- (3) : 柱径(mm)「120」「135」「150」から選択
- (4) :貫本数(本)

せん断耐力計算式

せん断耐力 $Q = \frac{M}{a_1} \times a_2$ (kN)

- M :基本耐力は、貫厚さ・柱径に対する特定回転角 1/20 時の曲げモーメント(kN・m)
- *a*₁ : 補正係数「横架材芯々」(m)
- a₂ :補正係数「貫本数」(本)

適用範囲

「標準設計法案」による。

3.3.「差鴨居」入力セル

「差鴨居」の入力項目に入力するとせん断耐力を自動計算します。 下図①~③に入力項目と結果表示の概要を示します。 入力項目は、①の(1)~(3)となります。



(詳細設計法案 P.110 より引用)



入力項目

- (1) : 横架材芯々間距離(mm)
- (2):仕口形状「雇いほぞ込栓打ち」

「雇いほぞ車知打ち(雇い竿車知)」 「小根ほぞ鼻栓打ち(胴付き小根ほぞ鼻栓止め)」

「小根ほぞ込栓打ち(胴付き小根ほぞ込栓止め)」

「小根ほぞ割り楔締め(胴付き小根ほぞ割り楔締め)」から選択

(3) : 梁せい(mm)「150」「180」「210」「240」「270」「300」から選択

せん断耐力計算式

せん断耐力 $Q = \frac{M}{a_1}$ (kN)

- M : 基本耐力は、仕口形状・梁せいに対する特定回転角 1/20 時の
 曲げモーメント(kN・m)
- a_1 :補正係数「横架材芯々」(m)

適用範囲

「標準設計法案」による。

3.4.「土壁」入力セル

「土壁」の入力項目に入力するとせん断耐力を自動計算します。 下図①~③に入力項目と結果表示の概要を示します。 入力項目は、①の(1)~(4)となります。



入力項目

(1):柱芯々間距離(mm)
 1P(1P=000mm)=注注け評価

1P(1P=900mm)未満は評価しない。

(2) :厚さ(mm)

土壁の厚さは、総壁厚=荒壁厚+中塗り厚とする。

「裏返し」が有る場合は、総壁厚は 50mm 以上とする。50mm 未満の時は評価しない。総壁厚が 80mm を超える場合は、*t*=80mm として評価する。

「裏返し」が無い場合は、総壁厚さ 50mm 未満でも厚みに応じて評価する。

- (3) : 裏返し「有」「無」から選択
- (4) : 仕様「標準*1」「京土壁*2」から選択

せん断耐力計算式

せん断耐力 $Q = \tau \times a_1 \times a_2 \times a_3$ (kN)

- τ : 仕様に対する特定変形角 1/20 時の土壁のせん断応力度(kN/m²)
- a₁ : 補正係数「柱芯々」(m)
- a2 :補正係数「厚さ」(m)
- a₃:補正係数「裏返し」有の時1、無の時0.5

適用範囲

※1「標準」は、「標準設計法案」による。

 ※2「京土壁」は、「京都左官協同組合 京土壁仕様」による。同仕様については、京都左 官協同組合(電話:075-353-7335、FAX:075-353-7290、メール:info@kyotosakan.com)
 までお問い合わせ下さい。

3.5.「乾式土壁」入力セル

計算ツールでは、乾式土壁パネルを「乾式土壁」と表記します。 「乾式土壁」の入力項目に入力するとせん断耐力を自動計算します。 下図①~③に入力項目と結果表示の概要を示します。 入力項目は、①の(1)~(4)となります。



入力項目

- (1) : 柱芯々間距離(mm)
 - 600mm 未満は評価しない。
- (2) :パネル厚さ(mm)「22」「26」から選択
- (3) :下地仕様「受材」「貫」から選択
- (4) : 張り方「片面」「両面」から選択

せん断耐力計算式

せん断耐力 $Q = p \times a_1 \times a_2$ (kN)

- p :基本耐力は、下地仕様・張り方に対する特定変形角 1/20 時の
 標準骨格曲線水平力(kN/m)
- *a*₁ : 補正係数「柱芯々」(m)
- *a*₂ :補正係数「パネル厚さ」*t*=26mmの時1、t=22mmの時0.84

適用範囲

「荒壁パネル設計・施工マニュアル」による。 チェックリスト9.構造要素の条件についても確認下さい。

3.6.「板壁」入力セル

「板壁」の入力項目に入力するとせん断耐力を自動計算します。 下図①~③に入力項目と結果表示の概要を示します。 入力項目は、①の(1)~(3)となります。



入力項目

- (1) : 柱芯々間距離(mm)
- (2) : 横架材芯々間距離(mm)
- (3):仕様「落込板壁(落とし込み板壁^{*1})」「貫縦張板壁(木ずり壁^{*1})」
 「下見板壁(下見板貼り^{*1})」「標準設計法板壁^{*2}」から選択

せん断耐力計算式

せん断耐力 $Q = p \times a_1 \times a_2$ (kN)

- p : 基本耐力は、仕様に対する特定変形角 1/20 時のせん断耐力(kN)
- a_1 :補正係数「柱芯々」 標準設計法板壁の時、900mm $\leq l \leq 1000$ mmの時に1 l < 900mm又はl > 1000mmの時に適用外 その他の仕様の時 $\frac{\text{EEx < 間距離}}{1820}$ a_2 :補正係数「横架材芯々」 $\frac{2730}{横架材芯 < || mmm}$

適用範囲

※1「京町家の限界耐力計算による耐震設計および耐震診断・耐震改修指針」による。

※2「標準設計法案」による。

3.7.「方杖」入力セル

「方杖」の入力項目に入力すると柱折損とせん断耐力を自動計算します。 下図①~③に入力項目と結果表示の概要を示します。 入力項目は、①の(1)~(3)となります。





図 方杖の入力項目

入力項目

- (1) : 横架材芯々間距離(mm)
- (2):柱樹種「スギ」「ヒノキ」「ケヤキ」から選択
- (3) :柱D(mm)

せん断耐力計算式

せん断耐力 $Q = p \times a_1$ (kN)

- p : 基本耐力は、特定変形角 1/20 時のせん断耐力(kN)
- a1 :補正係数「横架材芯々」 2730 横架材芯々間距離

柱折損判定計算式

方杖の柱折損の検討は下式を満足する場合、柱折損しない判定とする。 $M \leq Mc$ 、折損しない時〇印、折損する時×印 Q(kN)

柱の設計用曲げモーメント $M = \frac{Q}{2} \times h$

h=H-900mm として検討

柱の曲げ耐力 Mc=Zp×Fb

Zp : 塑性断面係数×有効率 0.75

Fb :曲げ基準材料強度



適用範囲

「京町家の限界耐力計算による耐震設計および耐震診断・耐震改修指針」による。 チェックリスト9.構造要素の条件についても確認下さい。

3.8.「小壁」入力セル

計算ツールでは、土壁による小壁を「小壁」と表記します。

「小壁」の入力項目に入力し、計算ボタンを押して下さい。柱折損とせん断耐力を自動計算します。 下図①~③に入力項目と結果表示の概要を示します。



せん断耐力計算式

「標準設計法案」「詳細設計法案」による。 「裏返し」が無い場合は評価しないこととする。

柱折損判定計算式

「標準設計法案」「詳細設計法案」による。

適用範囲

「標準設計法案」「詳細設計法案」による。

3.9.「乾式小壁」入力セル

計算ツールでは、乾式土壁パネルによる小壁の表記を「乾式小壁」とする。 「乾式小壁」の入力項目に入力し、計算ボタンを押すと柱折損とせん断耐力を自動計算します。 下図①~③に入力項目と結果表示の概要を示します。 入力項目は、①の(1)~(13)となります。 ^{2 [-括計算] ボタンを押すと入力した 全ての行について「柱折損」「せん断 耐力」の計算結果を表示します。}



入力項目と計算表示の概要は、「乾式土壁」「小壁」を参照して下さい。 ※(4)「下地仕様」は、「受材」のみとしている。

せん断耐力計算式

「標準設計法案」「詳細設計法案」による「小壁」に準ずる。

柱折損判定計算式

「標準設計法案」「詳細設計法案」による「小壁」に準ずる。

適用範囲

「標準設計法案」「詳細設計法案」「荒壁パネル設計・施工マニュアル」による。 チェックリスト9.構造要素の条件についても確認下さい。

3.10. 「剛節フレーム」入力セル

「剛節フレーム」の入力項目に入力するとせん断耐力を自動計算します。 下図①~③に入力項目と結果表示の概要を示します。 入力項目は、①の(1)~(2)となります。



図 剛節フレームの入力項目

※『耐震性能評価』シートの「異なる等価粘性減衰定数による補正係数」に影響します。

入力項目

- (1) : 横架材芯々間距離(mm)
- (2) : 仕様「2-36×180」「2-36×150」から選択

せん断耐力計算式

せん断耐力 $Q = p \times a_1$ (kN)

- p : 基本耐力は、仕様に対する特定変形角 1/20 時のせん断耐力(kN)

適用範囲

「京町家の限界耐力計算による耐震設計および耐震診断・耐震改修指針」に示された木質 ラーメン(リブフレーム)を含む架構による。

3.11. 「格子壁」入力セル

「格子壁」の入力項目に入力するとせん断耐力を自動計算します。 下図①~③に入力項目と結果表示の概要を示します。 入力項目は、①の(1)~(2)となります。



入力項目

- (1) : 柱芯々間距離(mm)
- (2) : 横架材芯々間距離(mm)

せん断耐力計算式

せん断耐力 $Q = p \times a_1 \times a_2$ (kN)

- p : 基本耐力は、特定変形角 1/20 時のせん断耐力(kN)
- a_1 :補正係数「柱芯々」 $\frac{rac{ ext{Etax} \| ext{Eff} \| ext{Eff} \| ext{Eff} \|}{1820}}$

適用範囲

「京町家の限界耐力計算による耐震設計および耐震診断・耐震改修指針」による。

3.12.「粘弾性ダンパー」入力セル

計算ツールでは、仕口型粘弾性ダンパーを「粘弾性ダンパー」と表記します。 「粘弾性ダンパー」の入力項目に入力するとせん断耐力を自動計算します。 下図①~③に入力項目と結果表示の概要を示します。 入力項目は、①の(1)~(3)となります。



図 粘弾性ダンパーの入力項目

※『耐震性能評価』シートの「異なる等価粘性減衰定数による補正係数」に影響します。

入力項目

- (1) : 横架材芯々間距離(mm)
- (2) : タイプ「15cm」「20cm」「30cm」から選択
- (3) : 箇所数

せん断耐力計算式

せん断耐力 $Q = p \times a_1 \times a_2$ (kN)

- p : 基本耐力は、タイプに対する特定変形角 1/20 時のせん断耐力(kN)
- a₁ :補正係数「横架材芯々」<u>2730</u> _{横架材芯々問距離}
- a2 : 補正係数「箇所数」 ^{箇所数}

適用範囲

「京町家の限界耐力計算による耐震設計および耐震診断・耐震改修指針」に示された制震 装置(仕口ダンパー)を組み込んだ架構による。

3.13.「仕口補強材」入力セル

計算ツールでは、樹脂一体型仕口補強材を「仕口補強材」と表記します。 「仕口補強材」の入力項目に入力するとせん断耐力を自動計算します。 下図①~③に入力項目と結果表示の概要を示します。 入力項目は、①の(1)~(3)となります。





図 仕口補強材の入力項目

入力項目

- (1) : 横架材芯々間距離(mm)
- (2) : タイプ「R10」「S10」から選択
- (3) : 箇所数

せん断耐力計算式

せん断耐力 $Q = p \times a_1 \times a_2$ (kN)

- p : 基本耐力は、タイプに対する特定変形角 1/20 時のせん断耐力(kN)
- a1 :補正係数「横架材芯々」 2730
- a_2 :補正係数「箇所数」 $\frac{箇所数}{4}$

適用範囲

「京町家の限界耐力計算による耐震設計および耐震診断・耐震改修指針」に示された仕口 補強材(耐震リング)を組み込んだ架構による。

3.14.「その他」入力セル

「その他」は、せん断耐力を直接入力します。 入力項目は、①の(1)となります。



入力項目

(1) : せん断耐力(kN)

1/20(rad)の耐力を直接入力して下さい。

適用範囲

文献・実験・メーカーなどの採用した適用範囲を順守すること。 チェックリスト9.構造要素の条件についても確認下さい。

3.15.「その他ダンパー」入力セル

「その他ダンパー」の入力項目に入力するとせん断耐力を自動計算します。 下図①~③に入力項目と結果表示の概要を示します。 入力項目は、①の(1)~(7)と③の(8)となります。



『耐震性能評価』シート



図 その他ダンパーの入力項目

※『耐震性能評価』シートの「異なる等価粘性減衰定数による補正係数」に影響します。

入力項目

- (1) : 横架材芯々間距離(mm)
- (2) : タイプ
- (3) : 箇所数
- (4) : 周期
- (5) : 基本耐力
- (6) : 補正係数 1
- (7) : 補正係数 2
- (8) :その他ダンパー等価粘性減衰定数

せん断耐力計算式

せん断耐力 $Q = p \times a_1 \times a_2$ (kN)

- p : 基本耐力は、タイプに対する特定変形角 1/20 時のせん断耐力(kN)を設定する。
- *a*₁ : 補正係数1を必要に応じて設定する。
- *a*₂:補正係数2を必要に応じて設定する。

適用範囲

文献・実験・メーカーなどの採用した適用範囲を順守すること。

4. 『通し柱折損の検討』シート

『通し柱折損の検討』シートは、建築物の耐震性能評価を行った後に通し柱に対する入力を行 い、通し柱折損の判定結果を表示します。

下図①~④に入力項目と結果表示の概要を示します。 入力項目は、①の該当項目となります。





詳細設計法案 P.43 から引用

図 強制変形を受ける通し柱

5. 『チェックリスト』シート

『チェックリスト』シートは、京町家型標準設計法の適用範囲や設計者が配慮すべき設計条 件を確認するためのものです。 ①該当項目をチェック 『要所見』側にチェックが入る場合は、適

入力項目は ①の該当項目とたります。

八刀項口は、①の政当項口となりより。	または記入して下さい。	用範囲内とな の計画で妥当 て下さい。	*る計画に見直9	「か、そのまま 「所見を添付し
適用範囲のチェックリスト	$\langle \rangle$			
		設計者	者記入	
項日	当該建築物の条件	適用範囲内	要所見	
1. 構造				
丸太や製材した木材を使用し、木組みの特性を活かした継手・仕口 によって組み上げられた『伝統的構法』による京町家を扱います。	伝統的構法による京町家か? 筋かいや構造用合板による耐力壁を用い た木造軸組工法ではないか?	🗌 Yes	□ No	
伝統的構法と他の構造種別との混合構造は対象外です。	木造軸組工法、鉄骨造、鉄筋コンクリー ト造、組積造など、他の構造種別との混 合構造ではないか?	☐ Yes	□ No	
架構や材料の経年劣化は構造計算に考慮していません。事前調査を 入念に行い、架構のゆがみ、継手・仕口のゆるみ、木材の腐朽・蟻 害などが見られた場合には、それらの現象を健全な状態に補修また は補強する必要があります。	事前調査により架構や材料の経年劣化の 状況を調べたか?	🗌 Yes	□ No	
	架構や材料の経年劣化に対して、健全な 状態に補修または補強する計画としてい るか?	🗌 Yes	🗌 No	
継手・仕口は十分な耐力・変形性能を保持できる仕様である必要があります。 総手・仕口の一体性が乏しい場合は、適切な方法で補修または補強する必要があります。	継手・仕口の一体性は確保されている か?	🗌 Yes	🗌 No	
2. 規模				
建築物の規模は、下記の条件を満たす必要があります。 ・ 階 数:2以下 ・延べ面積:500m以下 ・高 さ:13m以下 ・軒の高さ:9m以下	左記の条件を全て満たしているか?	☐ Yes	□ No	
3. 構造階高				
 福辺間高(福辺高学に吊りる暗高)は、家気「もむのように改足しなす。 1階構造階高 石場建ての場合は、礎石天端~2階床梁天端 2階構造階高 2階床梁天端〜屋根桁梁天端 ※梁天端に段差がある場合は、低い側の梁天端までとするか、多くの部分を占める梁天端までとするかなどの判断を行って下さい。 ※構造階高は、1階先行降伏条件の確認、1階2階同時降伏条件の確認、建築物の作用せん断力の大きさに影響します。 				
4. 柱脚計画				
柱脚の拘束条件を下記のA、B、Cに分類して評価します。 A:水平方向および上下方向の移動を拘束する	・拘束条件A	□ 採用		
B:水平方向の移動を拘束し、上下方向の移動を拘束しない	・拘束条件B	□ 採用		
U:水平万回およひ上下万回の移動を拘束しない 	 ・拘束条件C 	□ 採用		
※拘束条件Bの場合のみせん断耐力を低減します。	拘束条件の設定は実状に合っているか?	🗌 Yes	🗌 No	
柱脚の拘束条件が混在しているものは評価できません。	拘束条件が混在していないか?	🗌 Yes	□ No	
5. 地盤概要				
地盤種別は、第1.5種地盤または第2種地盤を扱います。	左記以外の地盤種別ではないか?	🗌 Yes	□ No	
地盤種別は、国立研究開発法人 防災科学技術研究所 地震ハザー ドステーション(J-SHIS)の表層地盤30m平均S波速度や、京都 市Gsマップから判定することを推奨します(その他の方法でも	・J-SHIS ・京都市Gsマップ	□ 採用 □ 採用		
	上記の方法で判定しているか?	🗌 Yes	□ No	
6. 想定地震				
農長6短または農皮6弱を選択できます。原則として農度6強を選択して下さい。	震度6強ぐ評価しているか?	∐ Yes	L] No	
				•

6. 印刷

『耐震性能評価』シート右横に「一括印刷」ボタンがあります。全シートを一式印刷する 場合は、このボタンを押して下さい。ヘッダーには、日時と建物名称と ver. が印刷されま す。デフォルトでは、A4サイズ片面印刷用に印刷設定されています。



印刷結果	ヘッダーに、日時と建 物名称と ver. が印刷さ れます。
------	--------------------------------------

2017/3/2	27 20:37						005						ver.2904
				京町	家型樓	標準設	計法によ	る耐	震性能	評価		ver.2904(01
						-	データ入力欄		*] 欄:ドロッブダウンリストから該計] 欄:建物名称、数値を直接	当項目を選択して下さ 入力して下さい。	561.
建物名称	OO 四 0 0 0 四	(864)	-								111 40-575 (0.1		
	階数	(階)	2	≦ 2	構造階高	2階階高	H ₂	(m)	1.766	地盤概要	 地盤種別 1階の作用せん断力を RH4 (新力を) 		第1.5種
建築物の	延べ面積	(m ²)	177.13	≦ 500		1 階階高	H ₁	(m)	2.883			平家建て	0.28
概要	高さ	(m)	7.60	≦ 13		階高比	$R_h = H_2 / H_1$		0.61		無次元化した値 Cb	2階建て	0.31
	軒の高さ	(m)	4.65	≦9	柱脚計画	水平方向	拘束しない	下方向	拘束しない	想定地震			震度6強
構造要素	その他ダンノ	ペー等価粘性	減衰定数										